

奨励賞



設計担当者

出口 亮

東京建築士会、大成建設(株) 設計本部



共同設計者

麻田 北斗

東京建築士会、大成建設(株) 設計本部

児童福祉施設等／大阪市鶴見区浜

TSURUMI こどもホスピス

構造 | 木造(在来軸組工法)、
直接基礎(布基礎)

階数 | 地上2階

敷地面積 | 2,719.90㎡

建築面積 | 636.07㎡

延べ面積 | 979.11㎡

竣工 | 平成27年12月22日



1



2



3



配置図兼1階平面図

- 1 「みんなの中庭」。道の空間に沿って6つの家型のボリュームが配置され、凹部は気持ちのよい居場所となっている
- 2 「ひろい道」。読書やお昼寝、お絵かきなど子どもの遊びや学びの場
- 3 2階「みんなの部屋」。家型フレームの登り梁をあらわした空間。吹抜けを介して1階ホールとつながる

選評

小児医療の進歩により救命率が高まる一方、在宅で医療的ケアを要する難病を抱える子どもが増えている現実はまだ知られていない。そのような子どもと家族に対してこの施設は、民間の寄付金で運営を支えることで、公的サービスでは実現できない医療・教育・保育にわたる包括的サービスを提供するという日本初の試みに応えたものである。

設計者は「家であり、村であるような場所」というコンセプトのもと、子どもと家族が日常から解

放されて安らぎを感じられ、同じ悩みを持つ仲間や社会とつながりを持てるさまざまな居場所を丁寧に作りこんでいる。

この計画のポイントは、敷地全体に大きくうねる道の空間を設定し、その一部が屋内化され縁側空間となり、それに沿って6つの異なる家型のボリュームを配置したことにある。道の空間の4つの凹部は広場、丘、中庭、森として企業・団体の寄付やボランティアの参加により段階的に整備され、竣工後5年以上経過した現在、

植樹された樹木と雑草が混然一体となった原っぱのような外部空間を形成している。そして、外壁の色が枯れてきた木造の建築と外部空間が相まって、まさに村のような光景が現れ、近隣の子どもたちにとっても自然と接する貴重な遊び場となっている。

この計画が持つ重い課題を感じさせることなく、建築の内外に豊かな日常の光景をつくり出した設計者の力量を高く評価する。また、このような施設が増えていくことを期待する。(嵯島 亮)